



東京
第一國立銀行

明治八年七月十日當銀行第六面株
主集會於向後此銀行營業日遂定
其改正方法後負撰舉事於六月廿
七日紙幣寮公達遵奉株主一同
建築當任取締役稠衆諮詢
株主一同此立案都多滋澤
榮一依賴其要領一條



大正
十一年
四月
贈月

414
A1110

874



其節ノ協議ニ從テ處置スヘシ
 右減株相濟ニ上ニ其割合ノ從ニ銀行
 紙幣・紙幣寮ニ還納シ曾テ出納寮
 ニ預ケル紙幣抵當公債證書ヲ受取ル
 但其高減株高ノ百分ノ六十タルヘシ
 右減株ヲ受取リタル公債證書ニ銀行
 へ流込トナリタル株數ヨリ生スル分ニ減株
 望ミ人ヨリ生スル分共向後五年間金札

引換公債證書ノ利息同額ヲ以テ大
 藏省ヨリ抵置拜借ヲ願フ可シ
 右抵置拜借ノ義即今一般不融通
 際銀行營業ノ困難不少自飽迫相
 願ヒ其許可ヲ乞フ事ニ盡カス可シ
 右ノ都合ヨリテ此抵置拜借願濟ニ
 上ニ減株望ミ人ヨリ生セシ公債證
 書ニ銀行ヨリ大藏省ノ拜借ヲシ本

人ハ其割合ヲ以テ同年限ノ括置債
附一為シ追テ五ヶ年ノ後ハ其公債證書
ヲ本人へ引渡シ此決算ヲ為スヘシ

發行紙幣金貨交換ノ制ニ更
正ヲ懇願スル事

銀行紙幣交換ノ本位金貨ヲ以テ
條例上御制定ナリト云氏昨明治七
年九月以後ノ景況ニテハ金貨打歩

為シ其交換烈敷終ニ其發行ヲ為ス
能ハサルニ付本年三月各銀行連署
上申シテ通貨交換ニ更正ナリトキ昔紙
幣寮ニ歎願中タルニ付尚精ニ其實況
関申シ上申ノ通リ許可ヲ乞フヘシ若シ
此更正ハ一般ノ御法制ニ關スルヲ以テ御
允許ナラサル時ハ更ニ相當ノ御處分ヲ
乞ヒ銀行ノ成立ヲ得ル様ニ懇請ス

可シ

得意先當座取引ノ事

當銀行得意先ヨリ當座貸借創
立後、日モ淺キニ付未ク稠衆ノ信憑モ
少ク且其取扱ノ鄭重嚴格ナルヨリ從
來ノ旧套ヨリテ營業セル高估ハ却テ
之ヲ厭フノ情ナルヤニ思考スト云凡銀
行ノ業ニ時ノ得失ニヨリテ其制ヲ變ス

山

ヘキモノニ非テス漸ク逐ク其信ヲ徵シ終
ニ永遠ノ繁盛ヲ期スルニ付從前ノ嚴格
ヲ確守シ強ク便宜法ヲ設ケテ目下虛
聲ヲ求メタルヲ眞實ノ處置トス可シ
現今此當座取引ヲ銀行ニ依頼スル
者ハハ夫々約束ヲ設ケ得意先ノ確實
ナルト信セシ向ハ臨時小高ノ値越ヲ為
シ漸次其望ミ人モ增加スルニ付更ニ歲月

ラ経ルニ從ヒ其増殖ハ疑ヒナカシ可シ
從前ニ井組ノ如キハ大林主コレヲ以テ便宜
特例ヲ与フル事アリト云氏既ニ小野組ノ
覆轍ヲ以テ殷鑒ト為サシル可ラサルニ昔向後
通常得意先ト同例ノ外ハ其請ヲ拒キ
必銀行ノ規制ヲ狂ラサル可シ
右ノ當座取引ニ付約定ヲ設クル合ハ約
定書ノ草案ヲ紙幣寮ニ上申シ其

東京

第一回三銀行

檢按先裁ヲ受ケ萬一モ變災ヲ生セテ
ル様ニスヘシ

貸附金ノ方法ヲ嚴正ニスル事

貸附金ハ都テ本人又ハ引請證人ノ所
有スル動不動産ノ確實ナル物品ヲ抵
當トシ其利息ハ年九分ヨリ壹割貳分
迄トシテ志人ノ取引高拾五萬圓ヲ限リト
ス可シ但小高ハ金百圓迄ヲ取扱フ可シ

東京

第一回三銀行

抵當品ハ公債證書類ヲ第一トシ金銀地
 金及米穀生糸木綿銅鐵ノ類ハ商品
 緊要タルニ付銀行融通ノ都合ニヨリ時
 價十分七位ヲ目途トシ其取扱方法銀
 行ノ規制ニ應スレハ之ヲ貸渡ス可シ
 地券ハ可成要ス拒ムヘシト云々凡東京府下最
 上ノ場所トシ其借用主ニヨリテハ之ヲ抵當
 ニシテ貸附ヲ為ス事アル可シ

現今貸附ト為リタル小野組及ニ為替會
 社如キハ頗ル過當ノ額ニシテ従前白情
 ニ拘泥セシヨリ生スル弊害アレバ其抵當
 物モ有之夫々處分ノ目途アルニ付更ニ精
 査其完全ノ了局ニ盡カスヘシ尤モ右ノ數口ヲ
 除クノ外ハ縱令其貸附先ニ破産ノ事アルモ
 抵當品及其取扱方ハ都テ嚴正ノ方法
 ニテ抑懸念ナカル可シ

抵當品貸付、銀行の本務ヲラサレモ現今
 有下ノ商估ハ割引手形發行ノ方法ヲ知ラ
 ス且之ヲ知ルモ容易ニ其取扱ヲ為シカクキニ付
 銀行資本金ニ有餘ラレハ不得已抵當貸付
 為スル第一ノ營業トセサル可ラズ然リト云ル銀
 行ノ融通ハ一般商業便益ヲ裨補スルヲ以
 ラ根理トスル所向後資本ニ贏餘ラレハ確實
 ナル方法ヲ設ケテ米穀生糸其他實用品

荷為替ヲ関キ專ラ地方ノ閑産融通
 資クル事ニ注意ス可シ

為替ノ事

大阪支店トシテ為替ニ當季ニ至リ更ニ増加シ
 官民ノ為替ヲ毎月平均シテ一月金四
 拾万圓以上ニ至レハ大金銀ノ融通ヲ資ケ隨
 テ銀行モ正經ノ利ヲ收ムルヲ得ヘシ神戶西
 京ノ如キモ精念之ニ從事セハ相應ノ額ニ

登元ヲ得ヘシ然リ而シテ昨年小野嶋田関
 店後一般為替ノ便益ヲ失シ大ニ各地閑産
 融通ノ途ヲ塞キタルハ銀行ノ本業ニ就テ
 深ク之ヲ注意セラル可ラス然リト云氏卒然各
 地人民若クハ縣官ノ申請ニ應ジ充分ノ
 目的ヲ確立セスシテ支店ヲ設ク如キハ然ニ
 他ノ覆轍ヲ蹈ムノ恐ナキ能ハス故ニ先為
 替要用ノ地ハ假ニ組合為替洋語コレス
ボリテシム

方法ヲ設ケ其望ミ人ヨリ根抵當ヲ受
 取リ其金額ヲ制限シテ臨時為替ノ方
 法ヲ開キ少シク融通ノ便益ヲ資クル事ニ
 注意ス可シ

右コレスボシテンスノ方法モ此銀行現在融
 通上ニ於テ其カク臆量シテ適度ノ處置
 アルヘキ事論ヲ俟タスト云氏今日ノ按算ヲ
 以テセハ向後償附金返入ノ目途モ了ルニ付

緊要ノ地ニシテ一地方金三万圓ノ限額トシ
拾所若シクハ拾貳ヶ所位ハ約束スルモ不
相當トセサル可シ

コレモボンテンズノ約定ヲ設ケテ各地ノ取引
為スニ之ヲ望ム者トノ協議ニ從ヒ約定書ノ
草案ヲ作リ紙幣寮ノ檢案ヲシテ後
之ヲ取究ム可シ

大藏省ノ命令ニヨリテ其取扱條例ヲ調
査上申セシ上海交換所設置ノ方法ハ
其資本金ヲ交附セラレ上申ノ條款ヲ許可
マテハ銀行ハ之ヲ擔任シテ派出某事務ヲ
取扱フ可シ

官府ノ金銀出納取扱規則之事
大藏省御預金規則ハ明治六年六月中
御制定公達セラレト云々右條款中朱書
記入ノ通更正ノ旨其根拠當ハ實額百

万圓ニ充ル物品ヲ供シ置ク可シ
内務省其外各寮局出納取扱方從
前ノ手續ニ從ヒ常ニ御預リ高ニ對スル抵
當ヲ供シ置ク可シ

大藏内務トモ現今取扱ノ外更ニ臨時取
扱方増殖セハ其事ニ應シ相當ノ手數
料ヲ乞フ可シ尤モ金銀受拂方其約
定ニ從テ精確ニ之ヲ取扱フ可シ

損益按算ノ事

前數條ノ改正ヲ為シ此銀行ヲシテ障
碍ヲフノ營業セハ向後ノ損益ハ別紙概算
ノ通ケルヘキ事ハ今日之ヲ確言スルヲ得ヘシ
但為替又ハ荷為替及官府ノ御用取扱
等ニテ更ニ一層事務ノ増殖ヲレハ隨テ其
利益ヲ增加シ差引總益此概算ヨリ上
進スヘシ

役負進退ス中合規則更正ノ事
現今ノ頭取取締役中ニ其兼任相
當ノ處置ヲ得サルアリテ且現ニ其中ノ兩
名ハ辭退ノ願請アルニ付向後ノ撰挙面
ヨリ紙幣寮ノ御達書ニ從ヒ旧情ニ拘
泥ス可ラサルハ勿論ナレトモ今此銀行ノ株主
中能ク銀行ノ事務ニ習熟シテ躬身
ヲ取締役トナリテ此銀行ノ事務ヲ

擔任スヘキ者ハ僅カクハ偶其人ナルモ或
ハ自己ノ職業アルヲ以テ敢テ其撰ニ應
カザルハキニ付今此改正撰挙者ハ須ラフモ
四名ヲ薦撰ス可シ

- 三井元之助
- 永田甚七
- 深川亮藏
- 西岡守公成

銀行條例第四條第四節に提す此取
締役ノ人算ハ少ク凡五人以テ充テルヘキニ右ノ
人撰ニテハ尚志名ヲ欠クニ付モ株主一同ノ願
望ヲテハ澁澤栄一モ取テ其不能ヲ以テセズ
取締役一名ニ任シテ此欠員ヲ填スヘシ
株主一同右ノ公撰ヲ評定セバ右ノ由ニ於
テ更ニ公撰シテ現務ヲ擔任シ得ルノ頭取
ヲ撰挙スヘシ但此取締役撰挙ヲ承諾

スル者ハ公撰ヲ以テ頭取ノ任ニ應スル事
ニ異論ナカラルタシ

右ノ撰挙ニテ取締役中頭取自撰定
セバ此銀行現務取扱ニ於テ即差支ラシ
ト云凡三井八郎右衛門三野村利左衛門ノ
兩名ハ此銀行中ノ大株主タレハ別ニ検査
掛ノ取締役ニ撰任シ銀行ノ當務ヲ擔
任セス只全般ノ行務上及諸計算向ノ

點檢調査ヲ專任セヨル可シ
 右兩名ノ取締役ハ銀行検査日外通
 常ノ出勤ハセサルニ付其給料及利益金
 配當モ其割合ニ從テ支給ス可シ
 支配人以下ノ人莫ハ現今夫々當任ノ者
 ルニ付追テ勤仕満期ニ於テ更ニ新任取
 締役ノ考察ヲ以テ之ヲ黜陟スル氏即今
 從前ノ通ニ格置ク可シ

右頭取取締役ノ撰任ヲ公定セハ申合
 規則同増補ハ朱書記入ノ通改正ス
 右當銀行行務改正ノ目途及役負撰
 挙案トモ卑考開陳イタシ候間株主各
 位ハ各其情實ヲ吐露セラレ御異案ノ慮
 朱批ヲ賜リ御協同上ノ此決議ヲ以テ
 當今此銀行營業ノ要旨下シテ當任ノ

頭取取締役ハ此條款ヲ遵守候様其
 撰任、際堅ク相誓約致シ度候也
 明治八年八月一日
 澁澤榮一